

WEEKLY SIGNAL

平成30年11月30日(金) 1452号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/3(月)	12/4(火)	12/5(水)	12/6(木)	12/7(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 400	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 41,700	△ 75,000	△ 22,000	+ 3,000	△ 3,000
資金需給	△ 42,100	△ 76,000	△ 23,000	+ 1,000	△ 5,000
主要要因	国債発行(2Y) 国庫短期証券 発行・償還(3M)	法人税・消費税・保険揚げ	国債発行(10年)		
オペ期日	共通担保(全) △ 1,500 CP等買入 △ 100 補充供給 + 2,600	成長基盤 △ 200			
オペスタート	国債買入 + 7,200 共通担保(全) + 1,900				
(日本)	債券市場サーベイ(11月調査)	マネタリーベース(11月) 日銀営業毎旬報告(11月30日現在)	若田部日銀副総裁、挨拶 (新潟県金融経済懇談会)		
(海外)	米 クラス連銀総裁、講演 米 ISM製造業景況指数(11月) ユーロ圏 製造業PMI (11月、改定値) ユーロ圏 財務相会合(ユーログループ)	EU財務相理事会	米 バウエルFRB議長、上下両院 合同経済委員会で証言 米 ベージュブック 米 ADP雇用統計(11月) 米 ISM非製造業指数(11月)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 貿易収支(10月) 米 新規失業保険申請件数 (12月1日終了週) 米 製造業受注(10月) OPEC総会	米 フレイナードFRB理事、講演 米 雇用統計(11月) 米 卸売在庫(10月) 米 シカン大消費者マインド指数 (12月、速報値) ユーロ圏 GDP(7-9月、確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国庫短期証券発行により前週末比1兆200億円減少の390兆2,000億円から始まった。その後は概ね横ばい圏で推移し、391兆2,900億円を越えた。
無担保コールON物は、週を通して調達ニーズが限定的だったため、軟調な地合となった。同加重平均金利は26~29日の間、△0.073%~△0.070%と狭いレンジで推移したが、30日は、△0.08%台の取引量が減少したことから、△0.062%に上昇した。
ターム物は1~2W物で△0.045%~△0.035%の出合が見られた。
日銀は30日、12月の長期国債等の買入れの運営について残存期間10年超の買入回数を4回(前月5回)とする一方、1回当たりのオファー金額のレンジは据え置き方針を公表した。来週の主な予定は、若田部日銀副総裁の挨拶(5日)、海外では財務相会合(3日)、バウエルFRB議長上下両院合同経済委員会で証言(5日)、ベージュブック(5日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.015 ~ 0.000
TDB 3M	△0.25 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約2兆3,800億円で、週間償還額(約1兆3,000億円)から大幅に増加した。発行市場は、連日発行超が続き活況であった。月末日スタートでは、期落ち約9,500億円に対し1兆2,000億円を越える発行が確認された。11月末の発行市場残高は、前月比+1兆5,000億円強の増加で19兆8,000億円弱となった模様。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジであった。CP等買入オペが、27日に予定通り2,000億円オファーされた。結果は、月末発行を控えたディーラーの在庫調整が見られ、按分レート△0.002%・平均落札レート0.002%と、前回(按分△0.004%・平均落札0.001%)比で上昇した。
来週の償還総額は約5,800億円となっている。5・10日発行もあって、発行超と思われる。発行レートは、投資家、ディーラーの購入ニーズ強く、引き続きマイナス~0%近辺での出合いが中心と思われる。4日には、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

30日入札の3M799回債は、最高落札レート△0.1712%(前回債△0.2530%)、平均落札レート△0.1991%(同△0.2687%)と前回から利回りが大きく上昇。ドル円のベーススワップの高止まりが一服し、海外勢の需要の剥落が意識され軟調な結果となった。週末のセカンダリー市場は、目立った出合は見られず閑散としたまま引けた。
来週は12月6日に6M物、7日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.16%~△0.17%から始まり、週央にかけて△0.15%~△0.165%で推移した。月末初めの取引となる30日受渡しは、前場△0.10%台後半から出合が付き始めたが、後場△0.11%~△0.12%まで上昇。短国3Mの発行日である3日受渡しでは、△0.09%~△0.10%で多く取引された。
SC取引では、10年352回債と351回債のbidが多く見られた。352回債は△0.10%台半ば~△0.20%近辺、351回債は△0.10%台後半~△0.20%台前半が出合の中心。
その他2年390・391・392・393・394回債、5年134・135・136・137回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年164・165・166回債、30年58・59・60回債、40年10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。